

学会参加報告

第65回日本小児保健協会学術集会に参加して

うるま市役所 こども健康課
保健師 外間 泉 美

平成30年6月14日～16日に鳥取県米子市で行われた、第65回日本小児保健協会学術集会に参加させて頂きました。

“こどもの健やかな成長を私たちの手で”をテーマに保健・医療・福祉・教育など多分野から、熱意を感じられる講演やシンポジウム、演題発表を拝聴する貴重な機会を得ることができました。

初日のシンポジウム「発達障害の早期発見から支援への新たな可能性」では、支援介入効果のあった事例紹介があり興味深い内容でした。発達障がいなどで支援を必要とする児の相談支援体制について、関係課で連携・協働しながら、一人ひとりの発達時期に応じた切れ目のない支援の実践報告があり、多職種、関係機関との連携や移行期のつなぎ支援の重要性を再認識しました。本市においても関係課と共に発達を支援する仕組みづくりを検討しているところです。母子保健活動の中で、親子と繋がり、支援を結びなおす機会を大切にすること。そして点から線、そして多面へとコーディネートできるのが保健師の強みであると感じると共に、力量形成が問われていると改めて考えさせられました。

2日目の会頭講演『「点と線」成長曲線と成長障害（低身長）』では、成長曲線は“点で評価するよりも、線で評価する”ことが大事だ、と述べておりました。その場の数値だけ捉えて評価するのではなく、成長の経過を評価し見立てを伝えること。保護者には3歳児健診以降も計測の機会を通して記録を続けることの大切さ、その方法を説明すること。忘れてはいけない視点など具体的に保健相談の実践に役立つ内容でした。

基調講演では「小さくても勝てる 子育て王国

とっとりの挑戦」というテーマで鳥取県知事平井伸治氏の講演がありました。高齢化、少子化の問題に直面するなか、将来を担う子のために、保育園無償化、在宅育児世帯の支援、発達障害への支援など、先駆的な子育て支援施策の結果、合計特殊出生率の上昇、移住者数の増加など大きな変化が現れてきているとの報告がありました。最後に紹介された山上憶良の一句「憶良らは今は罷（まか）らむ子位くらむ それその母も吾を待つらむそ」。社会全体で子どもを慈しみ、守り育てる雰囲気創造すること。地域に求められているメッセージとして印象深く残りました。母子保健活動においても、親子が人と地域と繋がっているのだと実感しながら、安心して育児に取り組めるような仕掛け（施策）の検討が必要であると改めて考えさせられました。

3日目のシンポジウム「映像メディア・スマホ依存は赤ちゃんの時から」からは、長時間の映像メディア接触は、親子の絆や自尊心の形成を阻害するだけでなく、言葉や情緒発達の問題に影響を与える可能性が示唆されている。長時間のスマホ使用により、両眼視力の異常が増加しているという眼科的問題からの報告など、警鐘を鳴らす内容が述べられ大変驚きました。保健指導者として、メディアとの関わり方や、五感を使う体験や人と触れ合うことの重要性について、乳幼児の保護者に予防的アプローチからの啓発が必要です。そして個々の生活背景に応じた柔軟な姿勢、提示力も求められ、支援技術をより一層高めていく必要性を感じました。

私自身、3日間の研修を通し母子保健活動を再確認し、新たな知識が広がる良い機会となりました。対象者・地域を診る「保健師の眼」を常に意識し、

親子に寄り添い成長を共に見守り、丁寧に関わる姿勢を心掛けていきたいです。

集会後の懇親会では、小児科医の先生方や保健師の先輩方、市町村保健師さん、事務局の皆さんから、これまでの活動について大変興味深いお話を伺いながら交流でき、私にとって良い刺激で素敵な時間となりました。

最後に、今回の貴重な機会を与えていただいた沖縄県小児保健協会事務局の皆様、うるま市役所の皆様に感謝申し上げます。

<宿泊先（米子市）の、とある風景>

①6月13日は移動日。鳥取空港から降り立ち、研修参加者一同でバスに揺られ米子市に到着したのが夕刻時。

沖縄では考えられませんが、6月の山陰地方は日が暮れると肌を感じる空気が涼しく、むしろ肌寒い位の外気温です。自宅ではシャワー浴で十分なのに、2日目の夕暮れ時は“湯船に浸かって芯から温まりたいな”と感じました。ふとホテルのガイドマップに目を通すと、ホテルの近くに温泉マークがあるではないですか！

私：「すぐ近くの温泉は、ここからどの位かかりますか？」

フロントスタッフ：「一番近い所で皆成温泉があって、タクシーで20分位ですね」

私：「(乗り物は十分利用したしなあ) 20分ですか・・・」と少し沈黙。

フロントスタッフ：「でしたらですね、ホテル近くに銭湯もありますよ。」

私：「(気軽に行けそう) 場所を教えてください」
向かったのは、ホテルから徒歩数分。

商業ビルが並ぶ表通りから、一步離れた静かな路地裏に佇む銭湯『米子湯』(写真)。大正7年創業で、平成に入ってリニューアルされたそうですが、外観から昭和の雰囲気が漂います。手ぶらでふらっと入った私のような一見さんには嬉しい、お風呂セット(タオル、固形石鹸、シャンプー、リンス)を購入。もちろんビン牛乳もありました。タオルを肩に掛けた坊主頭の少年が風呂上りにピ

ン牛乳をグビッと飲んでいる姿が微笑ましい。

地元の方とのんびりと深めの湯船に浸かり、冷えた体がじんわり温まります。昔「ゆーふるやーに行くよ」と、祖母に連れられ地元の銭湯に通った懐かしい記憶が蘇ります。

最後、お代を払って帰り際。

番台の兄さんの「湯冷めされませんように。」の言葉にホッコリします。素朴で身体も心も暖まる「米子湯」。しばし旅情気分浸れたのも、いい思い出です。

(沖縄にも昔ながらの銭湯は、残っているのかなあ)



②鳥取県といえば“ゲゲゲの鬼太郎”米子駅では色々な登場キャラの列車が乗り入れしていました。我々が帰路に就く時に乗車したのは、こちら(写真②)

